



2016.8.3
石垣市移住・定住支援協議会

移住・定住に関する施策 を進めるにあたっての留意点等

田口 太郎 / 徳島大学総合科学部
taguchi@tokushima-u.ac.jp
<http://www.taguchi-studio.net>
 taro_taguchi

移住・定住に関する施策を進めるにあたっての留意点等

移住者とはなにか？ 地域からみた移住者

自治の担い手としての移住者

- 高齢化した地域の集落維持の担い手
- 小学校を維持する上での児童数

新しいアイデアを提供する移住者

- これまで地域とは違う価値観による新しい可能性
- 新しい人的ネットワークとの接続による新しい可能性
- 集落の価値の再評価から、地域に気付きを与える



地域の持続に向けた大きな力と
変化の可能性を提供する触媒的役割

移住者の失敗

地域とのコミュニケーション能力

- 地域のルールを無視した言動によるお互いの不幸
- 地域の曖昧な人間関係
- 地域独自のプライバシー感覚

地域の受け入れとのミスマッチ

- 地域が移住者との付き合い方がわからない
- 地域が移住者を知らない

移住者コミュニティと既存住民コミュニティの分断

- 移住者グループと既存住民グループの分断
- 移住者グループへの不信感

地域再生の手段としての移住

移住者と自治との関係

- 移住者は単純に「住民」を増やすのではなく、自治の担い手（つまり地域再生の担い手）として位置づける

地域の主体性の再生

- 「あきらめ感」の広がる地域に「可能性」をもたらすことで、地域の主体的な取組みを再生する
- 地域の主体的な取組み→将来的には“自治”へとつながる



住民自治を再生させるキッカケとしての
移住者／外部人材

地域を“住み継ぐ”方向性

高流動性社会という現実

- 人々の多くは「移動」しながら生活している
 - 進学／就職／結婚／子育て／転職／自己実現
- 転出を止めるのは難しい
- 転入を受け入れ、地域の力にする
- 地域を特定個人が「頑張る」ところで維持するのではなく、様々な人々が入れ替わることで「住み継ぐ」ことが可能なのではないか

クリエイティブ産業の台頭

- ネット・インフラの普及による個人事業の広がり
- 個人事業は場所を選ばない
- 「地域」をネタに仕事をつくる

“移住政策”とはどうあるべきか？

単純な人口増加施策

- 「人口」という物差し自体を考え直す必要がある
- 地域で「使える」人材を得る必要がある
- 地域を「高める」人材を得る必要がある
- 地域を「広める」人材を得る必要がある



単純に「移住者が増え」れば地域が良くなるわけではない

地域自治の“担い手”の獲得

- 新たな担い手を獲得し、地域の主体性を獲得する
- 新たな担い手との対話から、新しい価値を創造する
- 新たな担い手との連携で、地域の課題を克服する

「地域を主語」にした移住を考える

改めて考える「移住」とはなにか？

- 地域の自治力を高めるための移住政策
- 受け入れる地域の主体的取組としての移住受入れ
- 地域の身の丈にあった受入れペース

移住者を安定的に受け入れるために

- 移住者も選ぶ必要、地域も変えるべきは変える必要
- 本年度に限らない安定した移住施策
- 人事異動に振り回されない安定的な受入れ窓口
- とくしまの地域と一体となったライフスタイルを発信

「移住」だけが全てではない

- 転出者やファンを含めた様々なネットワークによる地域支援

“よい移住者”とはなにか？

「地域を主語」とした時、移住者は評価される

- 「地域が主語」である場合、「地域が元気になる」に寄与できるか、出来ないか
- 「地域が主語」である場合、「地域の暮らしが良くなる」に寄与できるか、出来ないか

「良い移住者」とはなにか？を考える

- 上記のように、地域に貢献できる移住者像を考える
- 地域が、移住者とともにどのような暮らしを創りあげるのかを考える

“良い移住者”を受け入れる地域

移住者も「人」

- ◎ 結局、移住者も居心地の良い場所を求めている
- ◎ 「良い場所」の定義は人それぞれ
 - 豊かな自然環境
 - 温かい地域社会
 - スローライフ
 - 農のある暮らし
 - 自給自足
 - etc.

移住者に求めるばかりでなく、地域も変わる必要
移住者と家主の“間”に地域が入る
コーディネーター／仲介者の存在

“良い移住者”を受け入れる地域

移住者も「人」

移住者に求めるばかりでなく、地域も変わる必要

- ◎ 古い地域社会が若者を遠ざけてきた
 - 過度な干渉
 - ほぼ無いプライバシー
- ◎ 悪しき伝統
 - 現代に合わない因習
- ◎ 地域のアイデンティティを損なわない範囲で“多少垢抜ける”必要
 - 若者的／都市的ライフスタイルの許容
 - ゆるい地域社会

移住者と家主の“間”に地域が入る
コーディネーター／仲介者の存在

“良い移住者”を受け入れる地域

移住者も「人」

移住者に求めるばかりでなく、地域も変わる必要

移住者と家主の“間”に地域が入る

- 移住者vs家主の2者だけの移住にしない
 - “見えない”移住
 - “分からない”移住者の姿、価値観
- 地域が介することで…
 - “見える”移住
 - “分かる”移住者の姿、価値観
 - “地域がほしい”移住者を獲得する

コーディネーター／仲介者の存在

“良い移住者”を受け入れる地域

移住者も「人」

移住者に求めるばかりでなく、地域も変わる必要

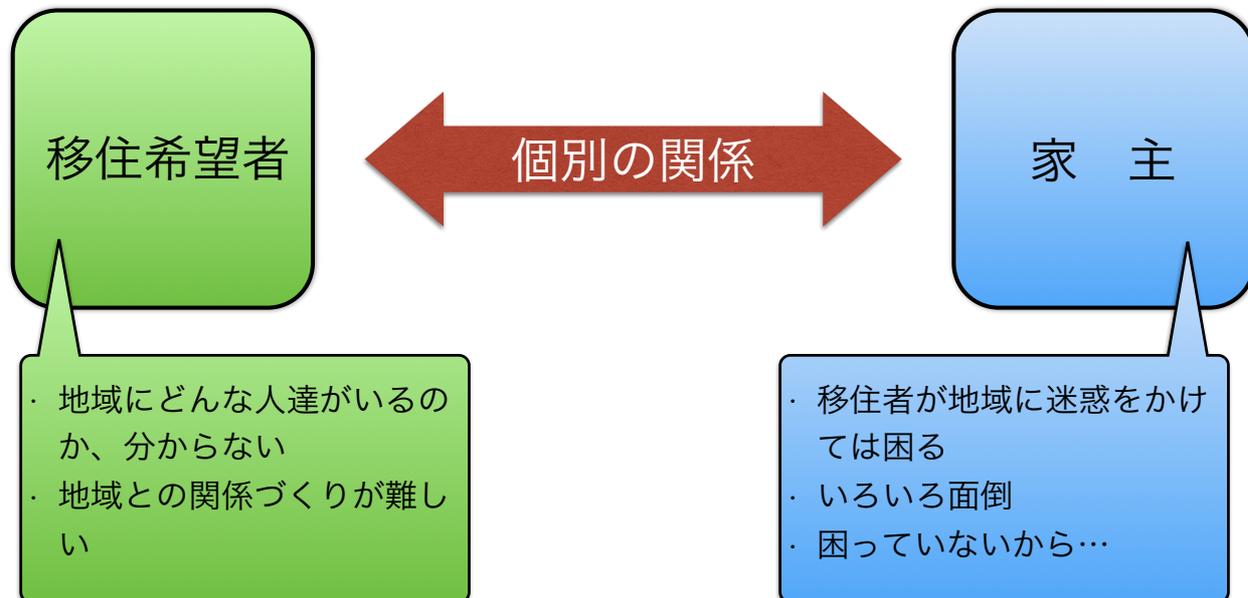
移住者と家主の“間”に地域が入る

コーディネーター／仲介者の存在

- 地域への働きかけ
 - “地域が考える”ためのサポート
- 地域内の温度差の解消
 - 移住先進集落の情報を他集落に伝える

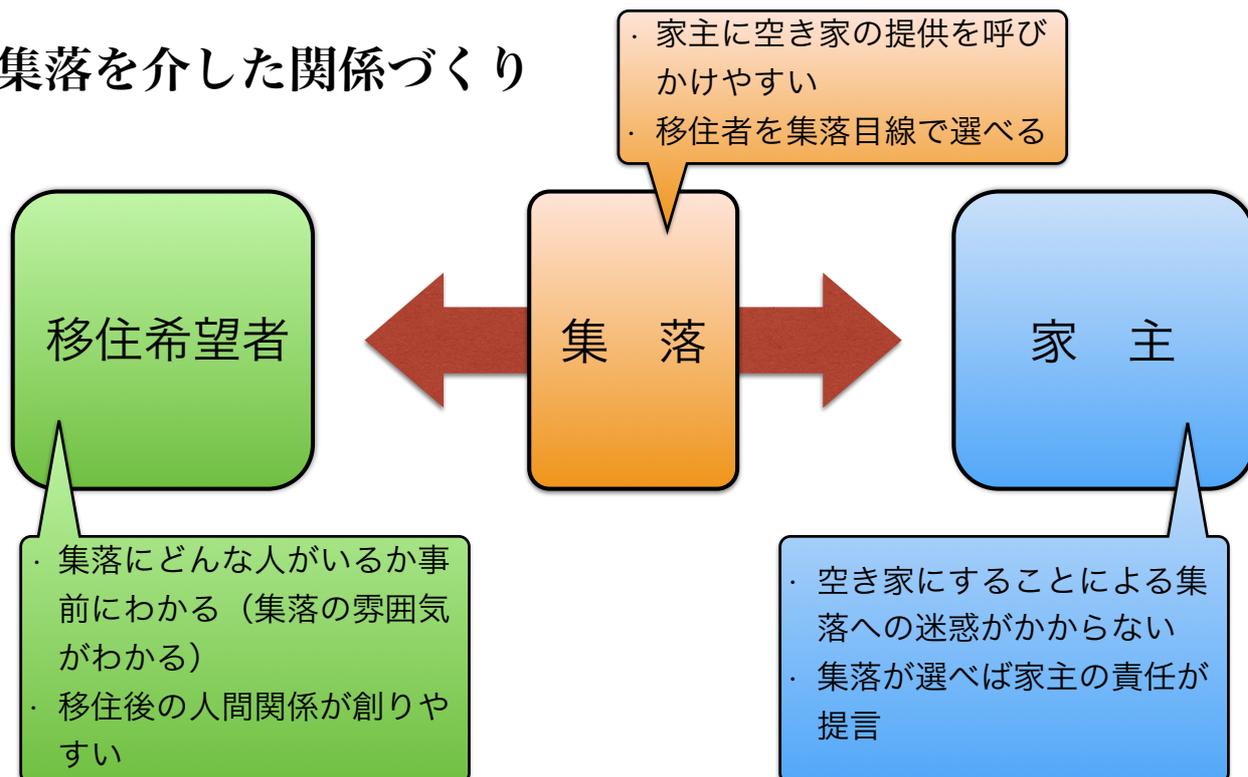
移住者と家主と地域、仲介者

これまでの移住の際の希望者、家主の関係



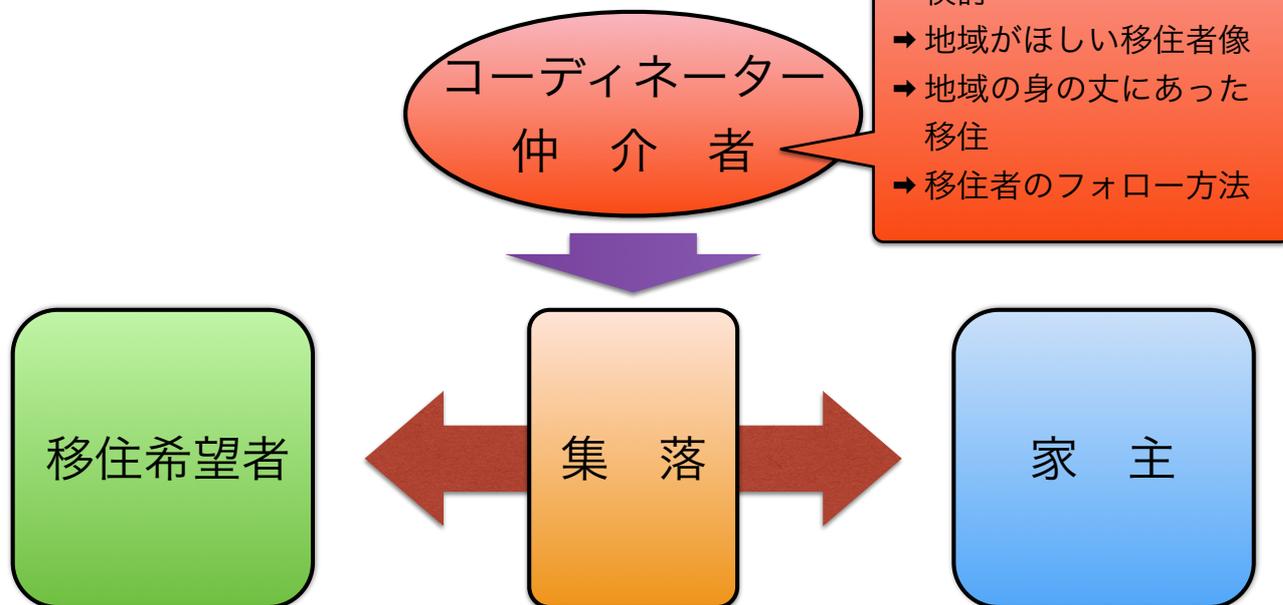
移住者と家主と地域、仲介者

集落を介した関係づくり



移住者と家主と地域、仲介者

コーディネーター、仲介者の役割



各地の移住政策

移住者に対する支援

- 定住奨励金
- 「地域おこし協力隊」などによる雇用

移住者に対するハードル

- 移住に対するマイナス面の情報提供
- 移住希望者へ負担をかけることによる「覚悟」の確認



移住者に迎合しすぎても・・・

移住者にプレッシャーをかけ過ぎても・・・

移住トレンドとどう付き合うか

移住先人気ランキング

- 移住受け入れに向けた過度な競争を生みかねない
- ランキングに一喜一憂しても。。。

田舎暮らし希望地域ランキング

2012年		2013年		2014年	
1位	長野県	1位	長野県	1位	山梨県
2位	岡山県	2位	山梨県	2位	長野県
3位	福島県	3位	岡山県	3位	岡山県
4位	香川県	4位	福島県	4位	福島県
5位	千葉県	5位	熊本県	5位	新潟県
6位	島根県	6位	高知県	6位	熊本県
7位	大分県	7位	富山県	7位	静岡県
8位	鳥取県	8位	群馬県	8位	島根県
9位	宮崎県	9位	香川県	9位	富山県
10位	和歌山県	10位	鹿児島県	10位	香川県

ふるさと回帰支援センター調べ

移住政策で重視すべきこと

地域を主語にする

- 地域の活力を取り戻すための移住者の存在
- 地域の新しい担い手としての移住者の存在
- 地域の新しい可能性を生み出す移住者の存在

地域が主語にならない移住者

- “地域”に住むことのブランド化
- “地域”に住んでいることの自己満足
- “地域”をネタにビジネス

移住に対して地域は何をすべきか

自らの戦略を持つ

- 移住者とどのように付き合うのか
- 移住者を得るい事により、地域がどう変わっていくのか
- どのような移住者を求めるのか
- 移住者とどのように付き合うのか？

プロセスを通じて関係を創る

- プロセスを通じて人を地域が判断する
- 地域にとって有用な人材を受け入れる
- 有用な人材は地域としてもフォローする

地域の状況に合わせた移住プロセス

1. 地域の状況を確認する / 意識啓発

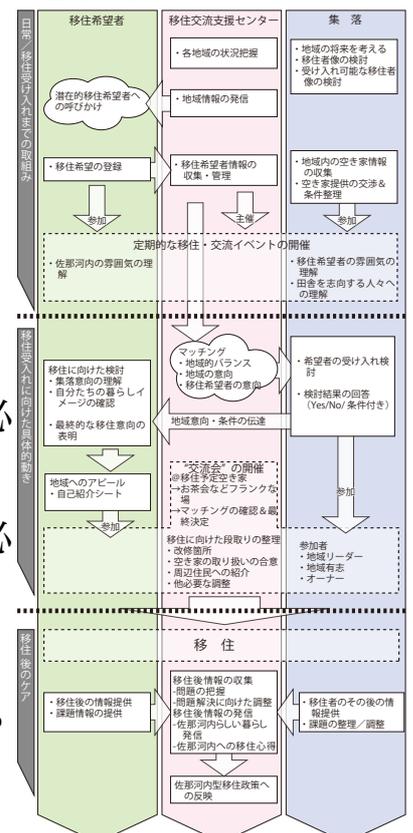
- 集落点検による地域の課題把握
- 今後の地域自治の担い手の状況確認

2. 移住が必要か？を考える

- 集落維持に向けた戦略を考える
- 担い手の状況を考えた上で「移住者が必要か？」を考える
- 必要な場合、どのような移住者が地域に必要なか？を考える

3. 移住者と地域の関係づくり

- どのように“有益な”移住者を獲得するか？
- 移住者と地域の関係づくり



地域自治を考える／人口戦略を考える

地域を小区分でみる必要

- 平穏大合併後の自治体単位ではなく、できるだけ小地域での人口を考える
- 人口総数よりも高齢化率、若年人口
- 広域化した自治体内での人口分布を考える

地域を俯瞰した上で、地域全体のバランスを見る

- 移住者を多く受け入れる地域と移住者を受入れない地域
- 移住者と既存住民との連携を意識する

地域を俯瞰した上で、身の丈にあった移住者獲得

- 地域の雰囲気急激に変えない
- 地域の状況に配慮する

地域側の受入れ環境

昨今の移住政策先進地

- 地域のルールに従える人を受け入れる
- 結果として、ネガティブな情報提供
- それでも移住したい人、を受け入れる

ネガティブなルールが、若者を遠ざけた経緯もある

- 地域自信も変わる必要があるのではないか
- 地域が変わるべき部分と、変わってはいけない部分

外部からの人を受け入れる環境づくり

- 良い部分も、悪い部分も、地域自信が理解する
- その上で、移住者を受け入れる地域力を高める

居住環境の整備

移住者を受け入れるに当たり、地域に理解と体制づくりが必要

- 地域が「移住者を受け入れる」自覚を持ち、積極的な人間関係をつくることで、担い手に
- 移住者への過度な期待を避ける

都市型思考の住民への配慮

- 移住者は地域とは違う価値観を持つ
- 変えるべき部分もある

移住者サポート（人脈サポート、生活支援、相談、etc.）

- 受入れリーダーは地域住民の紹介を
- 移住前後は地域と移住者の交流機会を

長期的視野で移住政策を考える

国のスピード感と住民のスピード感

- 行政的スピード感と住民のスピード感は合わない
- 住民のスピード感を崩すと、地域が思考停止に
- 地方創生の国家的動きをいかに戦略的に地域に取り込むか

大きな動きの中の小さな一歩としての移住

- 長期的地域ビジョンを描いた上で、移住戦略を考える

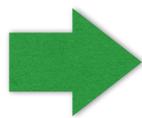


石垣の場合、しっかり準備しても大丈夫なのではないか？

「観光」を考える

なんのための「観光」か？

- 観光客が来て、生活が荒れれば意味が無い
- 観光客が来て、お金を落とさなければ意味が無い
- 観光客が来て、観光産業が潤わなければ意味が無い

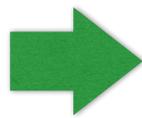


経済のための観光か？

観光業のための観光か？

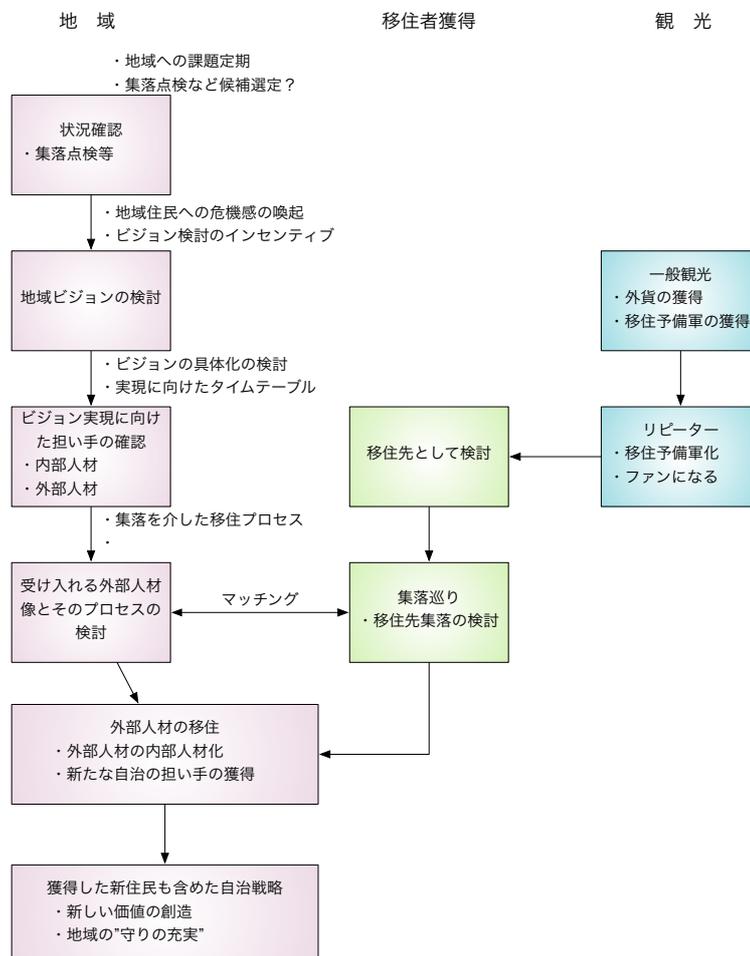
将来的な関係づくりに向けた「観光」を考える

- 観光客を「お客さん」から「仲間」に変える
- 観光客を「お客さん」扱いから、「本気の関係」に変える



移住予備軍、担い手獲得の

“きっかけ”としての観光を考える



移住の仲介者に求められる役割

居住環境の内発的整備に向けた啓蒙

- ◎ 地域住民が主体的に地域の将来をイメージし、移住者の受入れに向けてそれぞれが果たすべき役割を自覚する
- ◎ 単純に受け入れるだけでなく、どのような人材を受入れ、どのようにサポートするか、を考える

地域課題、地域ビジョンの把握

- ◎ 地域の課題やビジョンを把握した上で、移住希望者と地域とのマッチングを行う

移住者のアフターフォロー

- ◎ 移住後の課題の把握、必要な中間支援

最後に

改めて考える「移住」とはなにか？

- ◎ 地域の自治力を高めるための移住政策
- ◎ 受け入れる地域の主体的取組としての移住受入れ
- ◎ 地域の身の丈にあった受入れペース

移住者を安定的に受け入れるために

- ◎ 移住者も選ぶ必要、地域も変えるべきは変える必要
- ◎ 本年度に限らない安定した移住施策
- ◎ 人事異動に振り回されない安定的な受入れ窓口
- ◎ とくしまの地域と一体となったライフスタイルを発信

「移住」だけが全てではない

- ◎ 転出者やファンを含めた様々なネットワークによる地域支援